

(様式第10)

浜 医 大 医 第 8 0 号
平成 2 6 年 9 月 2 4 日

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人浜松医科大学
学長 中 村 達 印

浜松医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
氏 名	国立大学法人 浜松医科大学 学長 中村 達

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称 浜松医科大学医学部附属病院

--

3 所在の場所

〒 431 - 3192	電話 (053) 435-2111
静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科																<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等																
1	2	3	4	5	6	7										
8	9	10	11	12	13	14										
診療実績																

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科名等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名等						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="radio"/> 1 精神科	<input checked="" type="radio"/> 2 小児科	<input checked="" type="radio"/> 3 整形外科	<input checked="" type="radio"/> 4 脳神経外科	<input checked="" type="radio"/> 5 皮膚科	<input checked="" type="radio"/> 6 泌尿器科	7 産婦人科
<input checked="" type="radio"/> 8 産科	<input checked="" type="radio"/> 9 婦人科	<input checked="" type="radio"/> 10 眼科	<input checked="" type="radio"/> 11 耳鼻咽喉科	<input checked="" type="radio"/> 12 放射線科	13 放射線診断科	
14 放射線治療科	<input checked="" type="radio"/> 15 麻酔科	16 救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名等						
1 歯科口腔外科						
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科	2 神経科	3 心臓血管外科	4 リハビリテーション科	5 形成外科
6 病理診断科	7 小児外科			

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
37 床	床	床	床	576 床	613 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 9月 1日現在)

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	302 人	29.3 人	331.3 人	看護補助者	47 人	診療エック ス線技師	0 人
歯科医師	11 人	0.4 人	11.4 人	理学療法士	11 人	臨床検査技 師	55 人
薬 剤 師	45 人	0.0 人	45.0 人	作業療法士	5 人	臨床検査 衛生検査技 師	0 人
保 健 師	0 人	0.0 人	0.0 人	視能訓練士	3 人	そ の 他	0 人
助 産 師	31 人	2.1 人	33.1 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサー ジ指圧師	0 人
看 護 師	542 人	26.2 人	568.2 人	臨床工学技士	9 人	医療社会事 業従事者	4 人
准看護師	3 人	0.6 人	3.6 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	55 人
歯科衛生士	1 人	0.0 人	1.0 人	歯科技工士	1 人	事 務 職 員	113 人
管理栄養士	8 人	3.8 人	11.8 人	診療放射線技師	30 人	その他の職員	16 人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

(注) 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年 9月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	22 人	眼 科 専 門 医	8 人
外 科 専 門 医	37 人	耳鼻咽喉科専門医	11 人
精神科専門医	8 人	放射線科専門医	3 人
小児科専門医	19 人	脳神経外科専門医	8 人
皮膚科専門医	8 人	整形外科専門医	16 人
泌尿器科専門医	6 人	麻酔科専門医	21 人
産婦人科専門医	15 人	救急科専門医	3 人
		合 計	185 人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	464.8 人	8.4 人	473.2 人
1日当たり平均外来患者数	1,206.5 人	43.3 人	1,249.8 人
1日当たり平均調剤数	入院：598剤	外来：50.1剤	
必 要 医 師 数			118 人
必 要 歯 科 医 師 数			3 人
必 要 薬 剤 師 数			16 人
必 要 (准) 看 護 師 数			283 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

(注) 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

(注) 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(注) 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	234.5 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	12床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	316.5 m ²	病床数	24床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	21 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	413.17 m ²		(主な設備)	生化学・免疫全自動分析装置・全自動血液検査システム		
細菌検査室	174.70 m ²		(主な設備)	自動細菌同定感受性装置・自動血液培養装置		
病理検査室	149.80 m ²		(主な設備)	自動固定包埋装置・パラフィン包埋ブロック作製装置・ミクロトーム		
病理解剖室	46.00 m ²		(主な設備)	排水滅菌システム・固定液作製装置・解剖台		
研究室	266.40 m ²		(主な設備)	臨床情報検索データベースシステム		
講義室	255.10 m ²		室数	1室	収容定員 170人	
図書室	61.20 m ²		室数	1室	蔵書数 8,200冊程度	

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

(注) 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成26年8月31日	
紹介率	95.2%	逆紹介率	44.5%
算出根拠	A：紹介患者の数		5,180人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		2,766人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		733人
	D：初診の患者の数		6,209人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	115 人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	8 人
単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断（リアルタイムPCR法）	4 人
EBウイルス感染症迅速診断（リアルタイムPCR法）	7 人
神経変性疾患の遺伝子診断	4 人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定	1 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん（エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。）	0 人
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん（腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。）	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

- (注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。
- (注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	51 人	・膿疱性乾癬	15 人
・多発性硬化症	23 人	・広範脊柱管狭窄症	7 人
・重症筋無力症	53 人	・原発性胆汁性肝硬変	11 人
・全身性エリテマトーデス	164 人	・重症急性膵炎	12 人
・スモン	1 人	・特発性大腿骨頭壊死症	57 人
・再生不良性貧血	41 人	・混合性結合組織病	18 人
・サルコイドーシス	159 人	・原発性免疫不全症候群	5 人
・筋萎縮性側索硬化症	12 人	・特発性間質性肺炎	43 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	185 人	・網膜色素変性症	29 人
・特発性血小板減少性紫斑病	76 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	30 人	・肺動脈性肺高血圧症	17 人
・潰瘍性大腸炎	183 人	・神経線維腫症	20 人
・大動脈炎症候群	15 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	7 人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	3 人
・天疱瘡	21 人	・慢性血栓性肺高血圧症	10 人
・脊髄小脳変性症	30 人	・ライソゾーム病	5 人
・クローン病	113 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	25 人	・脊髄性筋萎縮症	4 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	123 人	・球脊髄性筋萎縮症	2 人
・アミロイドーシス	8 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6 人
・後縦靭帯骨化症	75 人	・肥大型心筋症	5 人
・ハンチントン病	0 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	2 人	・ミトコンドリア病	5 人
・ウェゲナー肉芽腫症	12 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	36 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	3 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガ症候群)	15 人	・黄色靭帯骨化症	7 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人	間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常 症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異 常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能 低下症)	279 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 救急搬送患者地域連携紹介加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 救急搬送患者地域連携受入加算
・ 7対1特定機能病院入院基本料(一般病棟)	・ 総合評価加算
・ 13対1特定機能病院入院基本料(精神病棟)	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 臨床研修病院入院診療加算	・ データ提出加算2
・ 救急医療管理加算	・ 特定集中治療室管理料4
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ 新生児特定集中治療室管理料1
・ 診療録管理体制加算2	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 25対1急性期看護補助体制加算(看護補助者5割未満)	・ 小児入院医療管理料2
・ 看護職員夜間配置加算	・
・ 看護補助加算2	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 無菌治療室管理加算2	・
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ 摂食障害入院医療管理加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 植込型除細動器移行期加算	・ 植込型心電図検査
・ 高度難聴指導管理料	・ 時間内歩行試験
・ 喘息治療管理料	・ 胎児心エコー法
・ 糖尿病合併症管理料	・ ヘッドアップティルト試験
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 人工臓腑
・ がん患者指導管理料1	・ 皮下連続式グルコース測定
・ がん患者指導管理料2	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 神経学的検査
・ 夜間休日救急搬送医学管理料	・ 補聴器適合検査
・ 外来放射線照射診療料	・ ロービジョン検査判断料
・ ニコチン依存症管理料	・ コンタクトレンズ検査料1
・ 開放型病院共同指導料	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ 地域連携診療計画管理料	・ 内服・点滴誘発試験
・ がん治療連携計画策定料	・ センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
・ がん治療連携管理料	・ CT透視下気管支鏡検査加算
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 画像診断管理加算1
・ 薬剤管理指導料	・ ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
・ 医療機器安全管理料1	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 医療機器安全管理料2	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 外傷全身CT加算
・ 歯科治療総合医療管理料	・ 大腸CT撮影加算
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 心臓MRI撮影加算
・ HPV核酸検出	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 外来化学療法加算1
・ 検体検査管理加算(IV)	・ 無菌製剤処理料
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。) ・(自家培養軟骨移植術に限る。)
・運動器リハビリテーション料(I)	・腫瘍脊椎骨全摘術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・がん患者リハビリテーション料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。) 及び脳刺激装置交換術
・集団コミュニケーション療法料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び 植込型骨導補聴器交換術
・認知療法・認知行動療法2	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・精神科作業療法	・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、 ・下顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・医療保護入院等診療料	・経皮的冠動脈形成術
・重度認知症患者デイ・ケア料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる 処置の休日加算1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる 処置の時間外加算1	・植込型心電図記録計移植術及び 植込型心電図記録計摘出術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる 処置の深夜加算1	・両心室ペースメーカー移植術及び 両心室ペースメーカー交換術
・歯科点数表第2章第8部処置の通則第6号に掲げる 処置の休日加算1	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び 経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・歯科点数表第2章第8部処置の通則第6号に掲げる 処置の時間外加算1	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・歯科点数表第2章第8部処置の通則第6号に掲げる 処置の深夜加算1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・補助人工心臓
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・経皮的動脈遮断術
・透析液水質確保加算2	・ダメージコントロール手術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下肝切除術
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数 表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術))	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・同種死体腎移植術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・生体腎移植術	・直線加速器による放射線治療
・膀胱水圧拡張術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	・
・歯科点数表第2章第9部手術の通則第9号に掲げる手術の休日加算1	・
・歯科点数表第2章第9部手術の通則第9号に掲げる手術の時間外加算1	・
・歯科点数表第2章第9部手術の通則第9号に掲げる手術の深夜加算1	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・
・輸血管理料 I	・
・輸血適正使用加算	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・自己生体組織接着剤作成術	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科技工加算	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ インプラント義歯	・
・ 肝切除手術における画像支援ナビゲーション	・
・ 超音波骨折治療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

- (注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	「臨床研修医教育CPC」 (11回：13症例) 「CPC・PMC」 (9回：13症例)
剖 検 の 状 況	剖検症例数 23 例 / 剖検率 7.5 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒト疾患解析にもとづく性差構築機序の解明	緒方 勤	小児科学	¥27,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
質量分析イメージングによる脳内環境の可視化	矢尾 育子	光イメージング研究室	¥4,992,680	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒトインプリンティング疾患発症を招く(エピ)遺伝学的機序の解明	緒方 勤	小児科学	¥11,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
炎症性サイトカインによるリンパ管膜蛋白の制御機構	平川 聡史	皮膚科学	¥3,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病におけるアミロイド蛋白生成γセクレターゼ活性の生体画像法の開発	尾内 康臣	生体機能イメージング	¥4,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脳電気刺激で誘導されるミトコンドリア蛋白UCP4による虚血耐性の検討とその応用	山本 清二	イノベーション光医学	¥2,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
子宮内膜症に対する新規分子標的治療薬の実用化	杉原 一廣	産婦人科学	¥3,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胎児プログラミングのエピゲノミクスを中心としたオミックス解析による探索的研究	前川 真人	臨床検査医学	¥5,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胎生期低栄養と良好な授乳期発育が成人期の生活習慣病発症におよぼす影響の基礎的解析	伊東 宏晃	周産母子センター	¥3,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
抗血管新生治療中における癌微小環境変化の解析	今野 弘之	外科学第二	¥4,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
羊水寒栓症の救命法と予知・予防法の開発	金山 尚裕	産婦人科学	¥3,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
VEGF-Aを起点とするIL-17産生T細胞の誘導：乾癬病態のパラダイムシフト	戸倉 新樹	皮膚科学	¥5,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
統合失調症の遅発性神経炎症仮説の証明と予防法の開発	岩田 泰秀	精神神経科	¥6,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
治療応答に伴うミトコンドリア機能変化に反応する新規がんイメージング薬剤の開発	間賀田 泰寛	分子病態イメージング	¥5,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Muse細胞をベクターとする悪性グリオーマの自殺遺伝子治療	難波 宏樹	脳神経外科学	¥3,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
病院の地域連携・退院調整部門における評価指標確立に向けた研究	小林 利彦	医療福祉支援センター	¥300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
がん転移モデルとしての悪性褐色細胞腫の解析	飯野 和美	検査部	¥800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ゲノム解析に基づく抗血小板薬内服時の上部消化管粘膜傷害予防法の確立	古田 隆久	臨床研究管理センター	¥1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
糞便RNA検査は潰瘍性大腸炎の診療に役立てることができるのか？	金岡 繁	分子診断学	¥800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心筋における細胞内レニン(プロ)レニン受容体の役割	加藤 秀樹	内科学第三	¥900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
造血器腫瘍における癌幹細胞特異的エネルギー代謝に関する基礎的研究	大西 一功	腫瘍センター	¥1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
円形脱毛症に対するケモカイン、ケモカイン受容体阻害を介する新規治療戦略	伊藤 泰介	皮膚科学	¥1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
自閉症におけるミトコンドリア機能異常の分子機構解明	アニータ・A	子どものこころの発達研究センター	¥300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
人口多能性幹細胞の悪性グリオーマへの移動能の検討	徳山 勤	脳神経外科	¥1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
出血性ショック時の静脈麻酔薬の薬物動態力学への影響	栗田 忠代士	手術部	¥1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
光ファイバーカテーテルを利用した血液ブドウ糖濃度の連続測定法の開発	土井 松幸	集中治療部	¥800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎癌微小環境のエネルギー産生におけるFABP7の機能解明と発癌予防に向けた探索	大園 誠一郎	泌尿器科学	¥800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

ヒト前立腺におけるβ3-アドレナリン受容体の発現とその機能の解明	大塚 篤史	泌尿器科学	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
着床部位子宮内膜細胞のヒト絨毛性ゴナドトロピンを介する細胞内情報伝達系の解明	田村 直顕	産婦人科学	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
絨毛細胞障害のCD44細胞内シグナル伝達系を介した修復制御機構の検討	杉村 基	産婦人科家庭医療学講座	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌における癌幹細胞の役割と新規治療法の探索	三澤 清	耳鼻咽喉科	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
成人の眼球運動障害の研究	佐藤 美保	眼科学	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
網膜色素変性患者の遺伝子診断システム構築：基幹施設症例の大規模収集と原因変異解析	堀田 喜裕	眼科学	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新たな視点からの緑内障発症遺伝要因の追求：ゲノムコピー数多型（CNV）の解析	蓑島 伸生	光ゲノム医学	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔癌における樹状細胞の役割の解析	加藤 文度	歯科口腔外科学	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
運動療法が高齢者の心筋保護効果を示すメカニズムについての研究	佐藤 重仁	麻酔・蘇生学	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
イマチニブ耐性慢性骨髄性白血病のBCR-ABL1遺伝子変異クローンの推移	小野 孝明	第三内科	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん性疼痛緩和に用いる鎮痛薬の個人差要因に基づく至適薬物療法の構築	川上 純一	薬剤部	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
改良型核酸染色による生がん幹細胞の分離と分子学的特性の網羅的解析法の確立	竹下 明裕	輸血・細胞治療部	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
甲状腺刺激ホルモン、副腎皮質刺激ホルモンのリニアール・ログな負の調節機構の解析	佐々木 茂和	第二内科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アスピリン起因性胃粘膜傷害におけるピロリ菌病原因子の存在意義の解明	杉本 光繁	第一内科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大動脈狭窄症の発症と進展におけるミッドカインの役割	林 秀晴	内科学第三	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臨床応用へ向けた結核患者における細胞性免疫誘導型樹状細胞ワクチンの免疫応答の解析	中村 祐太郎	第二内科	¥1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺炎球菌ワクチンが誘導するクラススイッチ機構の解明と新規ワクチンへの応用	須田 隆文	内科学第二	¥1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
敗血症性急性腎傷害におけるミトコンドリア由来ダメージ関連分子パターンの役割の検討	安田 日出夫	内科学第一	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
遺伝子改変マウスを用いた血球特異的GTPase RhoFの機能解析	勝見 章	臨床腫瘍学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節検索パターンの解析	藤原 雅雄	形成外科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ADHDのドーパミンD1受容体とミクログリアの定量解析-PETによる病態解明	竹林 淳和	精神医学	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症におけるデフォルトモードネットワークの破綻とその物質的背景	小俣 圭	生体機能イメージング	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
出生時低酸素曝露ラットを用いた統合失調症ミクログリア仮説の検証	高橋 太郎	精神科神経科	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
消化管間質腫瘍に対する新規治療標的の同定	菊池 寛利	第二外科	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ICG蛍光血管造影法による新たな腸管血流評価法の確立	神谷 欣志	第二外科	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
簡便で信頼性が高い脊髄機能モニター法の開発	椎谷 紀彦	外科学第一	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
MPTPサルにおけるSTN-DBS刺激強度と効果発現に関する病態解明の研究	浅川 哲也	脳神経外科学	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷における病態の解明と治療	松山 幸弘	整形外科	¥1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
妊産婦と胎児環境における亜鉛の重要性と補充療法の有効性の検討	内田 季之	産科婦人科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるゲノム網羅的なエピジェネティック解析	峯田 周幸	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

頭頸部癌アウトカム・リサーチに関する基礎的研究	高橋 吾郎	耳鼻咽喉科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
筋萎縮性側索硬化症との発症起因の共通性に基づいた緑内障発症機構解析	大坪 正史	光ゲノム医学	¥1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
出生コホート研究に拠る母乳のアレルギー疾患発症抑制効果の検討	松本 かおり	児童青年期精神医学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
染色体構造とゲノム配列の統合にもとづく新規エピゲノム解析法の開発	渡邊 良久	臨床検査医学	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ポルフィリン生合成系タンパクをマーカーとした口腔がんパーソナライズド光線力学療法	長田 哲次	歯科口腔外科学	¥2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IL-22産生を介した小腸粘膜防御機構の制御：IELとIECのクロストーク	杉本 健	第一内科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
MRIを用いた心腔内血流の解析	齊藤 岳児	救急部	¥1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ナノ粒子によるクロスプレゼンテーション機構を利用した新規喘息ワクチン療法の開発	榎本 紀之	内科学第二	¥1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ボンベ病のエキソソーム機能の解明とmiRNA発現解析によるバイオマーカーの同定	福田 冬季子	小児科学	¥2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Exome Sequencing to identify novel candidate genes for autism	イスマール サンシーム	精神医学	¥2,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症スペクトラムのstate marker－注視点検出装置の臨床応用と展開	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	¥2,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高機能自閉症者の脳内GABA濃度と各種臨床パラメーターとの関連性	和久田 智靖	精神医学	¥2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症のドパミンD1受容体の機能変化に関するPET研究	藤田 梓	精神医学	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
血清メタボローム解析による自閉症脂肪酸代謝異常の解明と診断マーカーの確立	高貝 就	子どものこころの発達研究センター	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
NAFLD/NASHを背景とする肝細胞癌多段階発癌と分子標的薬介入による効果	竹原 康雄	放射線部	¥2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
光診断技術を応用した術中ナビゲーションシステムの新規開発	平松 良浩	外科学第二	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
大腸癌微小環境を介した肝転移機構の解析と新規分子標的治療の開発	中村 光一	第二外科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脂肪肝を背景とする肝細胞癌の発癌および悪性形質獲得における遊離脂肪酸調節の関与	坂口 孝宣	第二外科	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ミクログリア生体画像による視床下核刺激術後のパーキンソン病変性予防効果の解明	野崎 孝雄	脳神経外科	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自殺遺伝子導入iPS細胞による悪性グリオーマの治療研究	天野 慎士	脳神経外科	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢者の術前運動療法の周術期心筋保護と術後回復促進のメカニズムに関する研究	加藤 孝澄	麻酔・蘇生学	¥1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
近赤外線分光法による母体胎盤および胎盤の酸素動態モニタリングの臨床応用に向けた検討	鈴木 一有	周産母子センター	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
網膜光障害モデルを用いた加齢黄斑変性機序追究：責任ゲノム領域の限定エキソーム解析	大石 健太郎	光ゲノム医学	¥1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
低酸素再酸素化ストレスが血管内皮細胞機能に及ぼす影響	小幡 由佳子	集中治療部	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔癌におけるCCR10陽性制御性T細胞誘導による腫瘍免疫回避機構の解明	渡邊 賀子	歯科口腔外科学	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔扁平苔癬に対する5-アミノレブリン酸を用いた光線力学療法・診断	増本 一真	歯科口腔外科	¥2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
三次元音声可視化装置を用いた複数呼吸音の同時解析	鈴木 明	医療安全管理室	¥522,160	補委	独立行政法人日本学術振興会
近赤外時間分解分光法を用いた姿勢変化時の脳血流と影響を与える因子の検討	入澤 寛	リハビリテーション部	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
精神疾患等のための創薬に有用な細胞動態in vivoモニタリング・システムの開発	尾内 康臣	生体機能イメージング	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心拍周期の最大変動量は輸血応答性閾値を示す	森田 耕司	手術部	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

心疾患患者に対する心拍リズムと運動リズム間における同期現象の応用	竹内 真太	リハビリテーション部	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
乳癌患者に対する運動トレーニングのエピジェネティクス効果の解明	森島 優	リハビリテーション部	¥100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
フィラグリンモノマー形成に関わるカリクレイン5の重要性	戸倉 新樹	皮膚科学	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症死後脳と周産期仮死モデル脳に共通する遺伝子メチル化の探索	武井 教使	子どものこころの発達研究センター	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害者の感覚過敏に果たす脳幹のミクログリア活性化の役割	豊田 志保	精神科神経科	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
探索的脳研究に寄与する脳深部蛍光イメージング法の開発	山本 清二	イノベーション光医学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
幹細胞を用いた障害精巣の賦活化の検討	高山 達也	泌尿器科	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
精子運動を亢進し受精率を改善する薬剤開発を目指したトランスレーショナル・リサーチ	杉原 一廣	産婦人科学	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
質量顕微鏡法によるヒト胎盤絨毛解析-病態特異的生体高分子マーカー同定を目指して-	伊東 宏晃	周産母子センター	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
リンパ管内皮細胞：新規培養技術に基づくVEGF-Cシグナル機構の解明	平川 聡史	皮膚科学	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害のセロトニン系・コリン系に及ぼす活性型ミクログリアの影響	飯田 妙子	精神科神経科	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
PETプローブのチェレンコフ光を利用した光イメージングと光治療法への技術展開	小川 美香子	分子病態イメージング	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
PAI-1測定による常位胎盤早期剥離の予知、予防法の開発	金山 尚裕	産婦人科学	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
不安定プラークの診断・薬物治療効果評価を目的的に施行するためのシステムの構築	小川 美香子	分子病態イメージング	¥6,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ユビキチンリガーゼSCRAPPERによる細胞内輸送制御機構の解明	矢尾 育子	光イメージング研究室	¥6,477,402	補委	独立行政法人日本学術振興会
就学前の低出生体重児母子の地域支援	中島 俊思	子どものこころの発達研究センター	¥400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
治療抵抗性関節リウマチ患者におけるタクロロウムの薬効・副作用の変動予測法の構築	丸山 修治	薬剤部	¥800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
オピオイド投薬患者におけるプロクロルペラジンの体内動態と薬効・副作用との関係解明	内藤 隆文	薬剤部	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
気管支喘息発作時における気道粘液過剰産生増悪メカニズムの解明とその抑制法の開発	藤澤 朋幸	内科学第二	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
母乳に含まれる抗肥満生理活性物質の探索	藤澤 泰子	小児科学	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症者の愛着感情、道徳感情およびユーモアの特異性に関する機能的脳画像研究	伊藤 大幸	子どものこころの発達研究センター	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
強迫性障害を対象とした症状ディメンションに基づいた治療戦略	井上 淳	精神科神経科	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
虐待へともなう自閉症スペクトラム障害幼児と保護者への包括的支援プログラムの開発	野村 和代	児童青年期精神医学	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
気分変調性障害に対する行動活性化療法の効果検討	大隅 香苗	精神科神経科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
白血病細胞の薬剤耐性化とエピジェネティクスの解析	坂口 公祥	小児科	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
セマフォリン発現トランスジェネリックマウスにおける皮膚免疫機能と肥満細胞の検証	龍野 一樹	皮膚科学	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
KID症候群モデルマウスにおける発癌メカニズムの解明	藤山 俊晴	皮膚科学	¥1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
皮膚虚血再灌流障害モデルにおける多機能タンパクHMGB1の役割	糟谷 啓	皮膚科	¥1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高比放射能C-11標識体を得ることが可能な簡便な新規合成法の開発とその応用	高島 好聖	分子病態イメージング	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎癌の診断治療における癌抑制遺伝子Dmp1発現の意義	甲斐 文丈	泌尿器科	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

がん患者におけるオピオイドの鎮痛効果とドーパミン神経系に及ぼす影響との関係解明	等 浩太郎	薬剤部	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
遺伝学的手法を用いた医療系学生と患者間におけるMRSAの伝播に関する研究	橋本 大	保険管理センター	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マイクロサテライト不安定性標的遺伝子MBD4変異と大腸がん薬物療法の感受性変化	岩泉 守哉	臨床腫瘍学	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病の脳内 $\alpha 7$ ニコチン受容体とアミロイド蓄積の病態解明研究	寺田 達弘	生体機能イメージング研究室	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
男児外性器異常発症に関与する環境因子と遺伝因子の複合的作用についての研究	大石 彰	地域周産期医療学講座(寄附講座)	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
フィラグリンモノマー過剰発現マウスにおける皮膚免疫機能の評価と天然保湿因子の役割	池谷 茂樹	皮膚科	¥1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
爪郭部毛細血管叢による自閉症早期診断法の確立	青山 美紗子	児童青年期精神医学	¥2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
乳がん描出における時間分解分光法と核磁気共鳴画像法との生物学的相違研究	芳澤 暢子	放射線科	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心肺蘇生後ランジオロール持続投与がもたらす有害事象軽減、予後改善効果の包括的検討	浦岡 雅博	麻酔科蘇生科	¥500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗コプロボルフィリン抗体を用いた羊水塞栓症の組織学診断および迅速診断法開発の検討	古田 直美	周産母子センター	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるDigital PCR装置を使ったメチル化解析法の確立	遠藤 志織	耳鼻咽喉科	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
質量顕微鏡を応用した老人性難聴に対するレチシン効果の研究	杉山 健一	耳鼻咽喉科	¥900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
日本人網膜色素変性患者におけるEYS遺伝子変異の迅速検査法の開発と臨床への応用	細野 克博	眼科学	¥1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
薬理学的安定化による脳動脈瘤破裂予防の研究	牧野 洋	麻酔科蘇生科	¥2,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
摂食障害に対する認知行動療法における脳部位間機能的結合-機能的MRIによる研究	望月 洋介	精神科神経科	¥2,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
質量顕微鏡を用いた肝癌微小環境における脂質合成・代謝経路の解析	森田 剛文	第二外科	¥1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胃癌腹膜播種に対する光技術を応用した新規治療法の開発	藤田 剛	第二外科	¥1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
児童自立支援施設入所児の実態把握に向けたアセスメント及び支援効果の検討	望月 直人	子どものこころの発達研究センター	¥1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
中枢神経系におけるstathmin1の生理機能と機能調節機構の解明	山田 浩平	子どものこころの発達研究センター	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
前頭-頭頂葉機能インバランス仮説に基づく自閉性障害の脳機能解明と評価指標作成	涌澤 圭介	子どものこころの発達研究センター	¥1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症スペクトラム児の精神的健康と適応に関連するプロテクトティブ要因の縦断的検討	高柳 伸哉	子どものこころの発達研究センター	¥700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
プロフィラグリンC末端領域の機能解析プロセッシングにおける分子機構の解明	坂部 純一	皮膚科学	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
接触障害者脳における新規トレーサーを用いたPET研究、活性化ミクログリアの検討	横倉 正倫	精神科神経科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
卵巣癌腹膜転移に対するヒトモノクローナル抗体を用いたトランスレーショナルリサーチ	柴田 俊章	産科婦人科	¥1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非小細胞肺癌患者におけるエルロチニブの血中動態に及ぼすがん悪液質の影響	石田 卓矢	薬剤部	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経障害性疼痛に対するプレガバリンの治療反応性に影響を及ぼす要因の検討・解析	高科 嘉章	薬剤部	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん患者におけるドーパミンD2受容体遮断薬による高プロラクチン血症の誘発因子の解析	田代 将貴	薬剤部	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
授乳婦におけるアムロジピンの血中濃度に影響を及ぼす因子の解明	久保野 尚子	薬剤部	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規制吐薬アプレピタントの脱カプセル化が薬効および薬物動態に及ぼす影響	高井 伸彦	薬剤部	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ルイス酸素欠損の担癌患者におけるCA19-9上昇メカニズム解明に関する研究	濱田 悦子	検査部	¥600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究	大西一功	腫瘍センター	¥500,000	補委	(独) 国立がん研究センター
先天性内分泌疾患の症例登録と長期予後追跡	緒方 勤	小児科学講座	¥5,000,000	補委	(独) 国立成育医療研究センター
「自閉症の病態研究と新たな診療技法(診断・予防・治療)の開発」	森 則夫	精神医学講座	¥103,740,000	補委	文部科学省研究振興局
「創薬コンセプトに基づく戦略的治療デザインの確立」(白血病ゲノムに基づく層別化治療の確立)	大西一功	腫瘍センター	¥8,000,000	補委	(独) 国立病院機構名古屋医療センター
成長障害の診断・治療戦略の開発	緒方 勤	小児科学講座	¥1,000,000	補委	(独) 国立成育医療研究センター
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	小倉廣之	外科学第一講座	¥100,000	補委	(公財)パブリックヘルスリサーチセンター
インプリンティング疾患の診断・治療法の開発と発症機序の解明	緒方 勤	小児科学講座	¥500,000	補委	(独) 国立成育医療研究センター
小児の失明に関わる遺伝性視覚障害の原因と病態解明	堀田喜裕	眼科学講座	¥2,000,000	補委	(独) 国立成育医療研究センター
手指の創傷に対する持続陰圧洗浄装置の開発	藤原雅雄	形成外科	¥1,700,000	補委	(独) 科学技術振興機構
医療情報データベース分析手法高度化のためのデータ検証(バリデーション)	木村通男	医療情報部	¥7,123,375	補委	厚生労働省医薬食品局
指接着型の胎児パルスオキシメーターの開発	金山尚裕	産婦人科学講座	¥69,888	補委	(独) 科学技術振興機構
性分化疾患の実態把握と病態解明ならびに標準的診断・治療指針の作成	緒方 勤	小児科学	¥6,500,000	補委	厚生労働省科学研究費
治験活性化に資するGCPの運用等に関する研究	渡邊 裕司	臨床薬理学	¥5,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
病院情報システムのデータを利用した薬剤市販後調査の効率化に関する研究	木村 通男	医療情報部	¥5,265,000	補委	厚生労働省科学研究費
医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースを活用した薬剤疫学的手法の確立及び実証に関する研究	川上 純一	薬剤部	¥8,100,000	補委	厚生労働省科学研究費
かかりつけ医/非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する慢性腎臓病患者の重症化予防のための診療システムの有用性を検討する研究	安田 日出夫	内科学第一	¥200,000	補委	厚生労働省科学研究費
びまん性肺疾患に関する調査研究	須田 隆文	内科学第二	¥500,000	補委	厚生労働省科学研究費
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	松山 幸弘	整形外科	¥1,500,000	補委	厚生労働省科学研究費
ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備	戸倉 新樹	皮膚科学	¥800,000	補委	厚生労働省科学研究費
重症薬疹の病態解明および発症予測、重症度予測マーカーの検索	戸倉 新樹	皮膚科学	¥1,500,000	補委	厚生労働省科学研究費
アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいたピンポイントな新規治療の開発	戸倉 新樹	皮膚科学	¥1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	大園 誠一郎	泌尿器科学	¥300,000	補委	厚生労働省科学研究費
視覚系の稀少難治性疾患群に関する症例データベース構築	堀田 喜裕	眼科学	¥2,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	佐藤 美保	眼科学	¥500,000	補委	厚生労働省科学研究費
わが国の妊産婦死亡原因の主要疾患に関する研究	金山 尚裕	産婦人科学	¥1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究	金山 尚裕	産婦人科学	¥1,500,000	補委	厚生労働省科学研究費
次世代シーケンサーを駆使した希少遺伝性難病の原因解明と治療法開発の研究	緒方 勤	小児科学	¥5,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
先天性異常の疾患群の診療指針と治療法開発をめざした情報・検体共有のフレームワークの確立	緒方 勤	小児科学	¥5,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
生殖補助医療により出生した児の長期予後と技術の標準化に関する研究	緒方 勤	小児科学	¥2,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
保健指導等を活用した総合的な糖尿病治療の年代別要因を踏まえた研究	渡邊 裕司	臨床薬理学	¥250,000	補委	厚生労働省科学研究費

医薬品の国際共同開発及び臨床データ共有の推進に向けた東アジアにおける民族的要因に関する研究	渡邊 裕司	臨床薬理学	¥3,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
機能遺伝子多型に係る人種差に関する研究	渡邊 裕司	臨床薬理学	¥450,000	補委	厚生労働省科学研究費
被災後の子どものこころの支援に関する研究	杉山 登志郎	児童青年期精神医学 (寄附講座)	¥2,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
低出生体重児の予後及び保健的介入並びに妊婦及び乳幼児の体格の疫学的調査手法に関する研究	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	¥1,300,000	補委	厚生労働省科学研究費
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	沖 隆	第二内科⇒H260101地域家庭医療学	¥2,400,000	補委	厚生労働省科学研究費
小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成	川原 央好	小児外科	¥450,000	補委	厚生労働省科学研究費
全例登録を基盤とした高リスク骨髄異形成症候群に対する標準治療の確立および予後マーカー探索の研究	竹下 明裕	輸血・細胞治療部	¥2,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
200ml献血由来の赤血球濃厚液の安全性と有効性の評価及び初回献血を含む学校献血の推進等に関する研究	竹下 明裕	輸血・細胞治療部	¥350,000	補委	厚生労働省科学研究費
電子的医療情報の利活用に必要な標準化の整備と普及策に関する研究	木村 通男	医療情報部	¥800,000	補委	厚生労働省科学研究費
成人難治性白血病におけるバイオマーカーに基づく層別化治療法の確立	大西 一功	腫瘍センター	¥3,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
WHOのチェックリストを用いた日本版「手術安全簡易評価システム」の開発と適応に関する研究	鈴木 明	医療安全管理室	¥400,000	補委	厚生労働省科学研究費

計 453,090,505

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	細井泰志	第一内科	GABA-A receptor impairment in cerebellar ataxia with anti-glutamic acid decarboxylase antibodies	J Neurol, 260(12), 3086-3092, 2013.
2	佐原 秀	第一内科	Twice-daily dosing of esomeprazole effectively inhibits acid secretion in CYP2C19 rapid metabolisers compared with twice-daily omeprazole, rabeprazole or lansoprazole,	Aliment Pharmacol Ther, 38(9), 1129-1137, 2013.
3	杉本光繁	第一内科	Antiplatelet drugs are a risk factor for esophageal mucosal injury,	Digestion, 87(4), 281-289, 2013.
4	安田日出夫	第一内科	Dephosphorylated Ser985 of c-Met is associated with acquired resistance to rechallenge injury in rats that had recovered from uranyl acetate-induced subclinical renal damage	Clin Exp Nephrol, 17, 504-14, 2013.
5	大橋 温	第一内科	Relationship between urinary fractional excretion of sodium and life prognosis in liver cirrhosis patients	Hepatol Res, 43, 1156-62, 2013.
6	大橋 温	第一内科	Alogliptin improves steroid-induced hyperglycemia in treatment-naïve Japanese patients with chronic kidney disease by decrease of plasma glucagon levels	Med Sci Monit, 10, 587-93, 2014
7	赤松泰介	第二内科	Direct isolation of myofibroblasts and fibroblasts from bleomycin-injured lungs reveals their functional similarities and differences.	Fibrogenesis Tissue Repair 6(1): 15, 2013.
8	赤松泰介	第二内科	Switching from salmeterol/fluticasone to formoterol/budesonide combinations improves peripheral airway/alveolar inflammation in asthma.	Pulm Pharmacol Ther 27(1): 52-6, 2014.
9	榎本紀之	第二内科	Amount of elastic fibers predicts prognosis of idiopathic pulmonary fibrosis.	Respir Med 107(10): 1608-16, 2013.
10	藤澤朋幸	第二内科	Alveolar nitric oxide concentration reflects peripheral airway obstruction in stable asthma	Respirology. 18(3): 522-7, 2013.
11	原田雅教	第二内科	Pharmacokinetic analysis of doripenem in elderly patients with nosocomial pneumonia.	Int J Antimicrob Agents 42(2): 149-54, 2013.

12	穂積宏尚	第二内科	Immunogenicity of dormancy-related antigens in individuals infected with <i>Mycobacterium tuberculosis</i> in Japan.	Int J Tuberc Lung Dis 17(6): 818-24, 2013.
13	穂積宏尚	第二内科	Acute exacerbation in rheumatoid arthritis-associated interstitial lung disease: a retrospective case control study.	BMJ Open 3(9): 2013.
14	柄山正人	第二内科	Maintenance therapy with pemetrexed versus docetaxel after induction therapy with carboplatin and pemetrexed in chemotherapy-naïve patients with advanced non-squamous non-small-cell lung cancer: a randomized, phase II study.	Cancer Chemother Pharmacol 72(2): 445-52, 2013.
15	松浦 駿	第二内科	CD74-ROS1 fusion transcripts in resected non-small cell lung carcinoma.	Oncol Rep 30(4): 1675-80, 2013.
16	松浦 駿	第二内科	SGOL1 variant B induces abnormal mitosis and resistance to taxane in non-small cell lung cancers.	Sci Rep 3: 3012, 2013.
17	美甘真史	第二内科	Predictors of phase III slope of nitrogen single-breath washout in COPD	Respir Physiol Neurobiol 189(1): 42-6, 2013.
18	三輪 聖	第二内科	Efficacy of Clarithromycin and Ethambutol for <i>Mycobacterium avium</i> Complex Pulmonary Disease: A Preliminary Study.	Ann Am Thorac Soc 11(1): 23-9, 2014.
19	森 和貴	第二内科	Respiratory mechanics measured by forced oscillation technique in combined pulmonary fibrosis and emphysema	Respir Physiol Neurobiol 185(2): 235-40, 2013.
20	白井敏博	第二内科	Respiratory mechanics and peripheral airway inflammation and dysfunction in asthma.	Clin Exp Allergy 43(5): 521-6, 2013.
21	白井敏博	第二内科	Usefulness of Colored 3D Imaging of Respiratory Impedance in Asthma.	Allergy Asthma Immunol Res 5(5): 322-8, 2013.
22	鈴木雄三	第二内科	Indoleamine 2,3-dioxygenase in the pathogenesis of tuberculous pleurisy.	Int J Tuberc Lung Dis 17(11): 1501-6, 2013.

23	安井秀樹	第二内科	Multidetector-row computed tomography assessment of adding budesonide/formoterol to tiotropium in patients with chronic obstructive pulmonary disease	Pulm Pharmacol Ther. 26(3): 336-41, 2013.
24	安井秀樹	第二内科	TM5275 prolongs secreted tissue plasminogen activator retention and enhances fibrinolysis on vascular endothelial cells	Thromb Res 132(1): 100-5, 2013.
25	美甘真史	第二内科	Predictors of expiratory flow limitation measured by forced oscillation technique in COPD	BMC Pulm Med. 14:23, 2014
26	草ヶ谷秀樹	第二内科	Toll-like receptor-mediated airway IL-17C enhances epithelial host defense in an autocrine/paracrine manner	Am J Respir Cell Mol Biol 50(1): 30-9, 2014.
27	大場健司	第二内科	Inappropriate elevation of serum thyrotropin levels in patients treated with axitinib	Thyroid. 23:443-448, 2013.
28	大場健司	第二内科	Factors associated with fluorine-18-fluorodeoxyglucose uptake in benign thyroid nodules	Endocr J. 60:985-990, 2013
29	大場健司	第二内科	A sudden onset and the spontaneous remission of severe hypo-high-density lipoprotein cholesterolemia without serious underlying disease: A case report.	Clin Chim Acta. 15:426:91-4
30	森岡 哲	第二内科	Non-Islet Cell Tumor-Induced Hypoglycemia Associated with Macronodular Pulmonary Metastases from Poorly Differentiated Thyroid Carcinoma.	Thyroid. 24(2):395-9.
31	川田一仁	第二内科	Identification of potential cytokine pathways for therapeutic intervention in murine primary biliary cirrhosis.	PLoS One 8(9):e74225, 2013
32	川田一仁	第二内科	Clonality, activated antigen specific CD8+ T cells and development of autoimmune cholangitis in dnTGF β RII mice.	Hepatology 58(3):1094-104, 2013.
33	住吉信一	第二内科	Differential expression of hepatic apurinic/aprimidinic endonuclease 1, a DNA repair enzyme, in chronic hepatitis	World J Hepatol 5(4):206-13, 2013.
34	高橋百合美	第二内科	Does hepatic oxidative stress enhance activation of nuclear factor-E2-related factor in patients with nonalcoholic steatohepatitis?	Antioxid Redox Signal 20(3):538-43, 2014.

35	則武秀尚	第二内科	Improved Serum Alpha-Fetoprotein Levels after Iron Reduction Therapy in HCV Patients.	ISRN Hepatology. Article ID 875140, 2014.
36	早乙女雅夫	第三内科	Mitochondrial dysfunction caused by saturated fatty acid loading induces myocardial insulin-resistance in differentiated H9c2 myocytes: a novel ex vivo myocardial insulin-resistance model	Exp Cell Res. 319(7):955-966. 2013 【循環器】
37	加藤秀樹	第三内科	Microtubule disorganization affects the mitochondrial permeability transition pore in cardiac myocytes	Circ J 78(5):1206-1215, 2014 【循環器】 [3. 578]
38	小野孝明	第三内科	Expression of CD56 is an unfavorable prognostic factor for acute promyelocytic leukemia with higher initial white blood cell counts.	Cancer Science. 105(1), 97-104, 2014]
39	亀野陽亮	精神科神経科	Serum levels of soluble platelet endothelial cell adhesion molecule-1 and vascular cell adhesion molecule-1 are decreased in subjects with autism spectrum disorder.	Mol Autism. 4(1):19 (2013. 06)
40	石川貴充	小児科	Endothelial Dysfunction in Children within 5 years after the onset of Kawasaki Disease.	J Pediatr. 2013;163(4):117-21.
41	岩島 寛	小児科	Serial change in myocardial tissue Doppler imaging from fetus to neonate.	Early Hum Dev. 2013;89(9):687-92.
42	藤澤泰子	小児科	Identification of AP2S1 Mutation and Effects of Low Calcium Formula in an Infant with Hypercalcemia and Hypercalciuria	J Clin Endocrinol Metab 98 (12): E2022-2027, 2013
43	関井克行	小児科	Possible contribution of fetal size and gestational age to myocardial tissue Doppler velocities in preterm fetuses	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 167 (1):121, 2013
44	山口理恵	小児科	A novel homozygous mutation of the nicotinamide nucleotide transhydrogenase gene in a Japanese patient with familial glucocorticoid deficiency	Endocr J 60 (7): 855-859, 2013
45	大石 彰	小児科	Glucose-6-phosphate dehydrogenase deficiency and adrenal hemorrhage in a Filipino neonate with hyperbilirubinemia	AJP Rep 3 (1): 5-8, 2013

46	岩島 覚	小児科	B-type natriuretic peptide and N-terminal pro-BNP in the acute phase of Kawasaki disease.	World J Pediatr. 2013;9(3):239-44. Jan 18.
47	藤澤泰子	小児科	The lipid fraction of human milk initiates adipocyte differentiation in 3T3-L1 cells.	Early Hum Dev. Sep;89(9):713-9 2013
48	高橋寛吉	小児科	Delayed Short-Term Administration of Granulocyte Colony-Stimulating Factor is a Good Mobilization Strategy for Harvesting Autologous Peripheral Blood Stem Cells in Pediatric Patients with Solid Tumors.	Pediatr Transplant. 2013;17:688-93.
49	井手佳美	第一外科	Human breast cancer tissues contain abundant phosphatidylcholine(36:1) with highstearoyl-CoA desaturase-1 expression	PLoS ONE , 2013, 8
50	和田英俊	第一外科	Outcomes of Single-Incision Laparoscopic Appendectomy at a Single Center	Surgical Science 4(10): 426-428 2013
51	大倉一宏	第一外科	Vertebral artery variations in thoracic aortic patients	Eur J Cardiothorac Surg. 2014 Jan 19
52	海野直樹	第二外科	Intraoperative lymph mapping with preoperative vein mapping to prevent postoperative lymphorrhea in paramalleolar bypass surgery in patients with critical limb ischemia	Surg Today. 44(3):436-42, 2014 Epub 2013 Mar 14.
53	眞野勇記	第二外科	Hemodynamic Assessment of Celiaco-mesenteric Anastomosis in patients with Pancreaticoduodenal Artery Aneurysm Concomitant with Seliac Artery Occlusion using Flow-sensitive Four-dimensional Magnetic Resonance Imaging	Eur J Vasc Endovasc Surg ;46(3):321-8, 2013
54	海野直樹	第二外科	Early experience with fenestrated stent grafts for treatment of juxtarenal aortic aneurysm	Ann Vasc Dis 6(3) 642-650, 2013
55	佐野真規	第二外科	Lymphangiogenesis and angiogenesis in abdominal aortic aneurysm	PLoS ONE 9(3):e89830, 2014
56	田中宏樹	第二外科	Adventitial vasa vasorum teriosclerosis in abdominal aortic aneurysm	PLoS ONE 8(2):e57398, 2013. Epub 2013 Feb 27

57	田中宏樹	第二外科	Cilostazol inhibits accumulation of triglyceride in a rat model of intimal hyperplasia.	J Vasc Surg 58(5) 1366-1374, 2013
58	森田剛文	第二外科	Detection of hepatocellular carcinomas with near-infrared fluorescence imaging using indocyanine green: its usefulness and limitation	Int J Clin Oncol 18: 232-241, 2013
59	飯野一郎太	第二外科	Usefulness of three-dimensional angiographic analysis of perigastric vessels before laparoscopic gastrectomy	Gastric Cancer 16(3): 355-361, 2013
60	坂口孝宣	第二外科	Anomalous arterial ramification in the right liver	Surg Today 43(11): 1269-1274, 2013
61	森田剛文	第二外科	Lysophosphatidylcholine acyltransferase 1 altered phospholipid composition and regulated hepatoma progression	J Hepatol 59(2): 292-299, 2013
62	宮崎真一郎	第二外科	Anti-VEGF antibody therapy induces tumor hypoxia and stanniocalcin 2 expression and potentiates growth of human colon cancer xenografts	Int J Cancer. 2013 Dec 20. [Epub ahead of print]
63	飯野一郎太	第二外科	Effect of miR-122 and its target gene cationic amino acid transporter 1 on colorectal liver metastasis	Cancer Sci. 104(5):624-30, 2013
64	酒井直人	脳神経外科	Arterial spin-labeling perfusion imaging reflects angiogenesis in non-functioning pituitary macroadenomas	Am J Neurorad 34: 2139-2143, 2013 【脳腫瘍】
65	川路博史	脳神経外科	Evaluation of tumor blood flow after feeder embolisation in meningiomas by arterial spin labeling perfusion magnetic resonance imaging	J. Neuroradiol 40(4): 303-306, 2013 【脳腫瘍】
66	伊藤たえ(山下)	脳神経外科	Detection of Tumor Progression by Signal Intensity Increase on Fluid-Attenuated Inversion Recovery MR Images in the Resection Cavity of High-Grade Gliomas	Neurol Med Chir (Tokyo) 53(7): 496-500, 2013 【脳腫瘍】
67	鮫島哲朗	脳神経外科	Evaluation of variation in the course of the facial nerve, nerve adhesion to tumors, and postoperative facial palsy in acoustic neuroma	J Neurol Surg B Skull Base 74:39-43, 2013 【脳腫瘍】
68	有馬秀幸	整形外科	Blockade of IL-6 signaling by MR16-1 inhibits reduction of docosahexaenoic acid-containing phosphatidylcholine levels in a mouse model of spinal cord injury	Neuroscience, 269: 1-10, 2014
69	花田 充	整形外科	Arundic acid (ONO-2506) inhibits secondary injury and improves motor function in rats with spinal cord injury	J Neurol Sci 337: 186-192, 2014

70	小林 祥	整形外科	A new alarm point of transcranial electrical stimulation motor evoked potentials for intraoperative spinal cord monitoring a prospective multicenter study from the Spinal Cord Monitoring Working Group of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research.	J Neurosurg Spine 20 (1) : 102-107, 2014
71	伊藤泰介	皮膚科	CXCL10 produced from hair follicles induces infiltrates of Th1 and Tc1 cells in the acute phase of alopecia areata followed by sustained accumulation of Tc1 cells in the chronic phase.	J Dermatol Sci 69:140-147, 2013.
72	伊藤泰介	皮膚科	Trichorhinophalangeal syndrome with low expression of TRPS1 on hair follicles.	J Dermatol 40: 396-398, 2013
73	坂部純一	皮膚科	Kallikrein-related peptidase 5 functions in proteolytic processing of profilaggrin in cultured human keratinocytes	J Biol Chem 288: 17179-17189, 2013
74	戸倉新樹	皮膚科	High frequencies of positive nickel/cobalt patch tests and high sweat nickel concentration in patients with intrinsic atopic dermatitis.	J Dermatol Sci 72(3): 240-245, 2013
75	伊藤泰介	皮膚科	Antihistaminic drug olopatadine downmodulates T cell chemotaxis toward CXCL10 by reducing CXCR3 expression, F-actin polymerization and calcium influx in patients with alopecia areata	J Dermatol Sci 72(1): 68-71, 2013
76	伊藤泰介	皮膚科	Birth, life, and death of the MAGE3 hypothesis of alopecia areata pathobiology	J Dermatol Sci 72(3): 327-330, 2013.
77	糟谷 啓	皮膚科	Potential application of in vivo imaging of impaired lymphatic duct drainage to evaluate the severity of pressure ulcer in mouse model	Sci Rep 4: 4173, 2014,
78	戸倉新樹	皮膚科	Acicular, but not globular, titanium dioxide nanoparticles stimulate keratinocytes to produce pro-inflammatory cytokines	J Dermatol 40: 357-362, 2013
79	戸倉新樹	皮膚科	Serum interleukin-22 and vascular endothelial growth factor serve as sensitive biomarkers but not as predictors of therapeutic response to biologics in patients with psoriasis.	J Dermatol 40 (10): 805-812, 2013.
80	戸倉新樹	皮膚科	Characterization of malignant T-cell line established from a rare case of CD8(+) CD56(+) Sézary syndrome	Br J Dermatol 168:885-7, 2013
81	高山達也	泌尿器科	Temsirolimus controlled metastatic advanced renal cell carcinoma for over 4 years: a case study.	Med Oncol 30:563, 2013

82	大塚篤史	泌尿器科	Expression of β -adrenoceptor subtypes in urothelium, interstitial cells and detrusor of human urinary bladder.	LUTS 5:173-80, 2013
83	タン チェン (譚 成)	泌尿器科	Impact of Gender in Renal Cell Carcinoma: The Relationship of FABP7 and BRN2 Expression with Overall Survival	Clinical Medicine Insights: Oncology 8:21-7, 2014
84	オー シュンカ (王 春霞)	眼科	(2014) Interaction between optineurin and the bZIP transcription factor NRL	Cell Biol Int 38(1):16-25
85	須藤 希実子	眼科	(2014) Clinical phenotype in ten unrelated Japanese patients with mutations in the EYS gene	Ophthalmic Genet 35(1): 25-34, 2014
86	大和谷 崇	耳鼻咽喉科	Congenital middle ear cholesteatoma: experience from 26 surgical cases	Ann Otol Rhinol Laryngol 122 (5): 316-321, 2013
87	瀧澤義徳	耳鼻咽喉科	Relationship between tympanic membrane retraction and habitual sniffing in patients with cholesteatoma	Acta Otolaryngol 133(10): 1030-1034, 2013
88	三澤 清	耳鼻咽喉科	Galanin has tumor suppressor activity and is frequently inactivated by aberrant promoter methylation in head and neck cancer	Transl Oncol 6(3): 338-46, 2013
89	三澤由幾	耳鼻咽喉科	Tumor suppressor activity and inactivation of galanin receptor type 2 by aberrant promoter methylation in head and neck cancer	Cancer 120(2):205-213, 2014
90	三澤 清	耳鼻咽喉科	Prognostic value of Type XXII and XXIV collagen mRNA expression in head and neck cancer patients	Molecular and Clinical Oncology. 2 (2):285-291, 2014
91	幸村友季子 (小林)	産婦人科	Association between body weight at weaning and remodeling in the subcutaneous adipose tissue of obese adult mice with undernourishment in utero.	Reprod Sci. 20(7): 813-827, 2013.
92	山崎香織	産婦人科	Cerebral oxygen saturation evaluated by near-infrared time-resolved spectroscopy (TRS) in pregnant women during caesarean section - a promising new method of maternal monitoring.	Clin Physiol Funct I. 33(2): 109-116, 2013.
93	古田直美	産婦人科	Immunohistochemical detection of meconium in the fetal lung: report of autopsied cases.	Arch Gynecol Obstet. 288(5): 967-969, 2013.
94	杉原一廣	産婦人科	Attenuation of fibroblast growth factor signaling by poly-N-acetyllactosamine type glycans.	FEBS Lett. 587(19): 3195-3201, 2013.

95	村松慧子 (加藤)	産婦人科	Comparison between placental gene expression of 11β -hydroxysteroid dehydrogenases and infantile growth at 10 months of age.	J Obstet Gynaecol Res. 40(2): 465-72, 2014.
96	坂原晴海	放射線科	Assessment of epidermal growth factor receptor status in glioblastomas	Asia Oceania J Nucl Med Biol 1 (2): 47-52, 2013
97	牧野 洋	麻酔科蘇生科	Translational research using a mouse model of intracranial aneurysm.	Transl Stroke Res. 2014; 5: 248-51. [1.939] (共同筆頭著者)
98	長田哲次	齒科口腔外科	Improved technique for evaluating oral free flaps by pinprick testing assisted by indocyanine green near-infrared fluorescence angiography.	J Craniomaxillofac Surg 2014 in press
99	内山佳之	齒科口腔外科	Imaging mass spectrometry distinguished the cancer and stromal regions of oral squamous cell carcinoma by visualizing phosphatidylcholine (16:0/16:1) and phosphatidylcholine (18:1/20:4).	Anal Bioanal Chem. 406: 1306-1316, 2014.
100	平野 裕一	齒科口腔外科	Matrix-assisted laser desorption/ionization imaging mass spectrometry revealed traces of dental problem associated with dental structure.	Anal Bioanal Chem. 406: 1355-1363, 2014.
101	永田武士	形成外科	Reading man flap: application to plantar defects. J	Foot Ankle Surg 52:498-500, 2013.
102	藤原雅雄	形成外科	Delayed distally based sural flap with temporary venous charging.	Microsurg. 33: 534-538, 2013.
103	水上高秀	形成外科	Reconstruction of lateral mandibular defect: a comparison of functional and aesthetic outcomes of bony reconstruction vs soft tissue reconstruction - long-term follow up.	Acta Oto-Laryngologica 133:1304-1310, 2013.
104	川上純一	薬剂部	Interindividual variations in aprepitant plasma pharmacokinetics in cancer patients receiving cisplatin-based chemotherapy for the first time.	Biol Pharm Bull 36: 676-681, 2013
105	内藤隆文	薬剂部	Cancer cachexia raises the plasma concentration of oxymorphone through the reduction of CYP3A but not CYP2D6 in oxycodone-treated patients.	J Clin Pharmacol 53: 812-818, 2013
106	佐藤聖	薬剂部	Hepatic steatosis with relation to increased expression of peroxisome proliferator-activated receptor- γ in insulin resistant mice.	Biol Pharm Bull 36: 616-623, 2013

107	八木達也	薬剤部	Plasma exposure of free linezolid and its ratio to MIC varies in critically ill patients.	Int J Antimicrob Agents 42: 329-334, 2013
108	田代将貴	薬剤部	Impact of genetic and non-genetic factors on clinical responses to prochlorperazine in oxycodone-treated cancer patients.	Clin Chim Acta 429: 175-180, 2014
109	内藤隆文	薬剤部	Simple and validated UHPLC method coupled to UV detection for determination of daptomycin in human plasma and urine.	Biomed Chromatogr 28: 317-319, 2014
110	竹下明裕	輸血・細胞治療部	Efficacy and resistance of gemtuzumab ozogamicin for acute myeloid leukemia.	Int J Hematol. 2013;97(6):703-16. doi: 10.1007/s12185-013-1365-1.
111	栗田忠代士	手術部	Influence of cardiac output on the pseudo-steady state remifentanil and propofol concentrations in swine	Acta Anesthesiol Scand 2013; 57: 754-760
112	木村哲朗	手術部	Bronchial intubation could be detected by the visual stethoscope techniques in pediatric patients	Pediatric Anesthesia 2013; 22: 1185-1190
113	加藤明彦	血液浄化療法部	A comparison of systemic inflammation-based prognostic scores in patients on regular hemodialysis.	Nephron Extra 3 (1): 91-100, 2013、【腎臓内科学】
114	加藤明彦	血液浄化療法部	Muscle wasting is associated with reduced exercise capacity and advanced disease in patients with chronic heart failure.	Future Cardiol 9 (6): 767-770, 2013、【腎臓内科学】
115	入澤 寛	リハビリテーション部	Incremental shuttle walk test as a valuable assessment of exercise performance in patients with pulmonary arterial hypertension.	Circ J. 25;78(1):215-21. 2013.
116	山内克哉	リハビリテーション部	Endoperoxide 4 receptors play a role in evoking the exercise pressor reflex in rats with simulated peripheral artery disease.	J Physiol. 1;591(Pt 11):2949-62. 2013.
117	望月利昭	救急災害医学	Quality of cardiopulmonary resuscitation affects cardioprotection by induced hypothermia at 34° C against ischemia/reperfusion injury in a rat isolated heart model.	Shock 39(6): 527-532, 2013
118	齊藤岳児	救急災害医学	Ultrasoundanalysis of the relationship between right internal jugular vein and common carotid artery in the left head-rotation and head-flexionposition・	Heart Vessels.;28(5):620-5. 2013Sep
119	岩泉守哉	臨床腫瘍学	Acidic tumor microenvironment downregulates hMLH1 but does not diminish 5-fluorouracil chemosensitivity.	Mutat Res, Jul-Aug, 747-748: 19-27, 2013.

120	柄山正人	臨床腫瘍学	Maintenance therapy with pemetrexed versus docetaxel after induction therapy with carboplatin and pemetrexed in chemotherapy-naïve patients with advanced non-squamous non-small-cell lung cancer: a randomized, phase II study.	Cancer Chemother Pharmacol , 72(8):445-452, 2013.
121	乾 直輝	臨床薬理学	Chronological Effects of Rifampicin Discontinuation on Cytochrome P450 Activity in Healthy Japanese Volunteers, Using the Cocktail Method.	Clin Pharmacol Ther, 94(6) : 702-708, 2013.
122	入澤 寛	臨床薬理学	Incremental shuttle walk test as a valuable assessment of exercise performance in patients with pulmonary arterial hypertension.	Circulation Journal, 78(1) : 215-221, 2013.
123	宮川幸子	臨床薬理学	Short-Term Drug-Drug Interaction between Sildenafil and Bosentan under Long-Term Use in Patients with Pulmonary Arterial Hypertension.	Pharmacology & Pharmacy, DOI:10.4236/pp.2013.47078 : 542-548, 2013.
124	ウェイ チャツァン (韋 嘉章)	臨床薬理学	Linoleic Acid Attenuates Endothelium-derived Relaxing Factor Production by Suppressing cAMP-hydrolyzing Phosphodiesterase Activity.	Circulation Journal, 77(11) : 2823-2830, 2013.
125	大石 彰	地域周産期医療学	Glucose-6-phosphate dehydrogenase deficiency and adrenal hemorrhage in a Filipono neonate with hyperbilirubinemia.	Am J Perinatol Rep 3: 5-8, 2013
126	古田隆久	臨床研究管理センター	Sitafloxacin-based third-line rescue regimens for Helicobacter pylori infection in Japan,	J Gastroenterol Hepatol, 29(3), 487-493, 2014.
127	古田隆久	臨床研究管理センター	Effect of dosing schemes of amoxicillin on eradication rates of Helicobacter pylori with amoxicillin-based triple therapy,	J Clin Pharmacol, 54(3), 258-266, 2014.
128	古田隆久	臨床研究管理センター	Rapid Automated Genotyping of CYP2C19 and the Helicobacter Pylori 23S rRNA Gene in Gastric Juice,	J Gastroenterol Hepatol Res, 2, 508-512, 2013.
129	古田隆久	臨床研究管理センター	Eradication of H. pylori infection in patients allergic to penicillin by the triple therapy with a PPI, metronidazole and sitafloxacin,	Intern Med, 53, 571-575, 2014.
130	古田隆久	臨床研究管理センター	Pharmacokinetics, Pharmacodynamics and Pharmacogenomics of proton pump inhibitors	Front Gastrointest Res 2013, 32: 18-33.
131	涌澤圭介	子どものこころの発達研究センター	Adaptive ability to cope with atypical or novel situations involving tool use: An fMRI approach.	Neuroscience research 2014 in Press

132	野田 航	子どものこころの発達 研究センター	Examining the relationships between attention deficit/hyperactivity disorder and developmental coordination disorder symptoms, and writing performance in Japanese second grade students.	Research in Developmental Disabilities, 34, 2909-2916. 2013. 【発達心理学】
-----	------	----------------------	---	--

計 132

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- (注) 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	安井秀樹	第二内科	Ⅱ型呼吸不全を伴う慢性閉塞性肺疾患増悪に対する非侵襲的陽圧換気療法の有用性について—当院における治療成績—	日本呼吸器学会雑誌 2(3): 163-8, 2013.
2	白井敏博	第二内科	成人喘息における血清ペリオスチンと eosinophil cationic protein(ECP)の関連.	呼吸 32(5): 479, 2013.
3	釣谷大輔	第二内科	インスリングルリジンとその他超速効型インスリン製剤間の作用特性の差異 入院および外来での検討	新薬と臨床 62:718-725, 2013
4	福家辰樹	小児科	小児アレルギー患者をもつ家族への震災時対策に関する意識調査、	小児科臨床 67(1), 66-74, 2014
5	高橋寛吉	小児科	E. coli asparaginaseに過敏性を示した小児急性リンパ性白血病に対するErwinia asparaginaseの安全性の検討.	臨床血液. 54巻4号 pp 370-377. (2013年)
6	高橋寛吉	小児科	5 g/m2大量メトトレキサート療法の安全性に関する検討.	日本小児血液・がん学会雑誌. 50巻1号 pp38-42. (2013年)
7	松林 朋子	小児科	色素性乾皮症の包括的全身管理	小児科臨床、66巻10号 Page2129-2133、2013年
8	高橋寛吉	小児科	Poor weight gain and pulmonary hypertension in childhood interstitial lung disease.	磐田市立総合病院誌. 15巻1号 pp 5-9. (2013年)
9	高橋寛吉	小児科	Wernicke脳症を発症した急性リンパ性白血病合併の21トリソミーの1例	日本小児科学会雑誌 117巻1号 pp 113-117. (2013年)

10	高橋寛吉	小児科	Imatinibにより改善した強皮症型皮膚慢性移植片対宿主病の小児症例	日本造血細胞移植学会雑誌. 3巻1号 pp27-31. (2014年)
11	朽久保 順平	第一外科	レミフェンタニルの少量単回投与による気管挿管中患者の気管吸引に対する循環変動の抑制効果	臨床麻酔 38:167-171, 2014
12	杉山憲嗣	脳神経外科	DBSの実際. ーリスクとベネフィットー	日本生物学的精神医学会誌 24:23-29, 2013 【機能外科】
13	有馬秀幸	整形外科	MRIによって早期診断した成長期腰椎分離症の発生頻度	静岡整形誌 6(1):19-22, 2013
14	有馬秀幸	整形外科	慢性腰痛に対するトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェンの除痛QOL改善効果	中部整災誌 56(3):673-674, 2013
15	有馬秀幸	整形外科	中部整災誌 56(5):1291-1292, 2013	中部整災誌 56(5):1291-1292, 2013
16	有馬秀幸	整形外科	成人脊柱変形に対する矯正固定術後の歩行評価	J spine Res 4(11):1703-1708, 2013
17	坂野友啓	整形外科	整形外科疾患患者に対する回復期リハビリテーション病棟の有用性の検討	臨整外48(9):863-867, 2013.
18	坂野友啓	整形外科	受診が遅れた大腿骨転子部骨折患者に対する検討	中部整災誌 56(2):325-326, 2013
19	長谷川智彦	整形外科	椎体形成術後のサルベージ PVCR (Posterior vertebral column resection) 手術	中部整災誌 56(3):681-682, 2013
20	花田 充	整形外科	前十字靭帯損傷におけるMR像と瘢痕形態の関連と膝関節前方不安定性についての検討	JOSKAS 38(3):650-654, 2013
21	星野裕信	整形外科	Pincer type FAIにおける臼蓋縁切除量の決定	中部整災誌 56(4):795-796, 2013
22	星野裕信	整形外科	軽度臼蓋形成不全を伴った股関節唇損傷に対する股関節唇部分切除術の長期経過例	Hip Joint 39:149-153, 2013.
23	星野裕信	整形外科	Pincer type FAIに対するリムトリミング・シミュレーション	Hip Joint 39:173-177, 2013
24	星野裕信	整形外科	寛骨臼回転骨切り術における臼蓋の骨頭被覆率の3次元評価	Hip Joint 39:264-266, 2013

25	星野裕信	整形外科	セメントレスシステムの近位部の形状およびコーティングの違いが初期固定性に及ぼす影響	日本人工関節学会誌43: 143-144, 2013
26	星野裕信	整形外科	歩行開始後に発見された先天性股関節脱臼の骨頭変形の特徴	日小整会誌22(1): 64-68, 2013
27	星野裕信	整形外科	DDHの予後評価としてのACXを用いた臼蓋骨頭被覆率の有用性	日小整会誌 22: 392-396, 2013
28	星野裕信	整形外科	中山間地域での運動器検診における下肢変形性関節症の頻度	中部整災誌57(1): 41-42, 2014
29	小山博史	整形外科	変形性股関節症患者の骨盤傾斜と脊椎sagittal balance	中部整災誌56(4):955-956, 2013
30	小山博史	整形外科	単純X線正面像を用いた臼蓋被覆ソフトACX Windows版の妥当性	Hip Joint39: 256-259, 2013
31	小山博史	整形外科	人工股関節置換術における静脈血栓塞栓症予防薬 (Fxa 阻害薬) の有効性と安全性—経口型と皮下注射型の比較.	日本人工関節学会誌 43: 5-6, 2013
32	小林 祥	整形外科	成人脊柱変形に対する矯正固定術は矢状面下肢アライメントも変えるか?	J. Spine Res.4(10): 1471-1475, 2013
33	澤田智一	整形外科	両側特発性前骨間神経麻痺の1例.	中部整災誌57(1): 209-210, 2014
34	安田達也	整形外科	脊椎変形矯正固定術後のTHAをどのタイミングで施行すべきか?	Hip Joint 39: 381-383, 2013.
35	安田達也	整形外科	成人脊柱変形矯正手術において非固定部位である胸椎はどのような変化をするか	J Spine Res 4(9): 1360-1362, 2013
36	大和 雄	整形外科	パーキンソン病に伴うrigidな脊椎後弯変形に対して椎体骨切りを併用した広範囲後方固定術を施行した1例	東海脊椎外27: 14-17, 2013
37	大和 雄	整形外科	パーキンソン病に伴うrigidな脊柱変形に対する骨切りを併用した後方広範囲固定術	J spine Res 4(7): 1102-1106, 2013
38	大和 雄	整形外科	成人脊柱変形における歩行時大腿屈曲例の検討	中部整災誌56(4): 959-960, 2013
39	戸倉新樹	皮膚科	アトピー性皮膚炎に対するレボセチリジンの臨床効果とそれに伴う血中バイオマーカーとT細胞サブセットの変動	Progress in Medicine33(10): 2239-2244, 2013

40	高山達也	泌尿器科	腹腔鏡下根治的腎摘除術を施行したpT1N0M0腎癌の長期成績	Jpn J Endourol 26:83-6, 2013
41	高山達也	泌尿器科	去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル治療後の薬物療法の検討	日泌会誌 104:681-7, 2013
42	青島明子	眼科	(2013) 調光機能を付加した遮光レンズの有用性	眼臨紀 6(8): 633-637.
43	杉山健一	耳鼻咽喉科	当科における喉頭癌症例の検討	耳鼻臨床 補 136: 1-4, 2013
44	高橋吾郎	耳鼻咽喉科	当院における上顎洞扁平上皮癌に対する超選択的シスプラチン動注科学放射線療法に関する検討	耳鼻臨床 補 136: 5-11, 2013
45	伴昭宏	耳鼻咽喉科	当科における上咽頭癌症例の検討	耳鼻臨床 補 136: 12-17, 2013
46	三澤清	耳鼻咽喉科	浜松医科大学における中咽頭癌の臨床検討	耳鼻臨床 補 136: 18-20, 2013
47	望月大極	耳鼻咽喉科	当科における下咽頭癌症例の検討	耳鼻臨床 補 136: 21-26, 2013
48	瀧澤義徳	耳鼻咽喉科	当科における口腔癌症例の検討	耳鼻臨床 補 136: 27-31, 2013
49	細川誠二	耳鼻咽喉科	当科における耳下腺癌症例の検討	耳鼻臨床 補 136: 32-35, 2013
50	遠藤志織	耳鼻咽喉科	当科における甲状腺癌症例の検討	耳鼻臨床 補 136: 36-39, 2013
51	細川久美子	耳鼻咽喉科	当科における人工内耳手術症例の検討	耳鼻臨床 補 136: 45-48, 2013
52	水田邦博	耳鼻咽喉科	先天性に鼓膜に存在した真珠腫の3例	耳鼻臨床 補 136: 49-52, 2013
53	水田邦博	耳鼻咽喉科	コルチ器神経走行の走査電顕による観察	耳鼻臨床 補 136: 53-57, 2013
54	石川 竜司	耳鼻咽喉科	当科における副鼻腔真菌症手術症例の検討	耳鼻臨床 補 136: 85-88, 2013

55	三澤由幾	耳鼻咽喉科	頸部転移により血清NSE値が上昇した嗅神経芽細胞腫例	耳鼻臨床 補 136: 89-94, 2013
56	大和谷崇	耳鼻咽喉科	聴器カルチノイド例	耳鼻臨床 補 136: 99-103, 2013
57	中安 一孝	耳鼻咽喉科	乳突洞に進展した耳前部瘻孔による難治性中耳炎例	耳鼻臨床 補 136: 104-107, 2013
58	影山桃子	耳鼻咽喉科	下降性壊死性縦隔炎例	耳鼻臨床 106(2): 167- 171, 2013
59	瀧澤義徳	耳鼻咽喉科	QOL向上を目指して 頸部郭清術後の頸部・上肢機能リハビリテーション	JOHNS 29(6):1046- 1050, 2013
60	高橋 吾郎	耳鼻咽喉科	鼓膜切開に関するエビデンス	JOHNS 30(1): 59-64, 2014
61	杉山健一	耳鼻咽喉科	<急患・急変対応マニュアル そのとき必要な処置と処方>術中・術後の急変への対応 術後編 術後せん妄	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 増刊号 85(5): 378-381, 2013
62	古牧宏啓	輸血・細胞治療部	手術室との連携の向上を目的とした画像モニタリングと輸血情報システム.	日本輸血細胞治療学会誌. 2013;59 (3):476-481.
63	竹下明裕	輸血・細胞治療部	アジアにおける赤血球不規則抗体研究進捗状況と国内調査結果	日本輸血細胞治療学会誌, 2014;60
64	飯嶋重雄	地域周産期医療学	簡易型プロトロンビン時間測定装置を用いた正常新生児の血液凝固機能スクリーニング検査	産婦児血液誌 23: 24-25, 2013
65	中島俊思	子どものこころの発達研究センター	「3歳児健診における保健師によるPARS短縮版活用の可能性と課題」	小児の精神と神経・53・P47- P57. 2013年
66	野田航	子どものこころの発達研究センター	「日本語版Strength and Difficulties Questionnaire 自己評定フォームの信頼性・妥当性の検討—単一市内全校調査を用いて—」	臨床精神医学42 巻, P119- P127. 2013年
67	野田航	子どものこころの発達研究センター	「小中学生を対象とした日本語版Strength and Difficulties Questionnaire 教師評定フォームの標準化と心理測定学的特徴の検討—単一市内全校調査を用いて—」	臨床精神医学42 巻, P247- P255. 2013年
68	伊藤大幸	子どものこころの発達研究センター	「保育の記録による発達尺度改訂版(NDSC-R)の開発、信頼性および妥当性の比較」	精神医学55巻, P263-P272. 2013年
69	野田航	子どものこころの発達研究センター	「小中学生の不注意および多動・衝動的行動傾向と攻撃性、抑うつとの関連」	心理学研究84 巻, P168- P174. 2013年

70	伊藤大幸	子どものこころの発達研究センター	「保育記録による発達尺度（NDSC）の構成概念妥当性：尺度構造の検討と月齢および不適応問題との関連」	発達心理学研究 24巻, P211-P220. 2013年
71	高柳伸哉	子どものこころの発達研究センター	「小中学生における欠席行動と教師評定による学校適応との関連」	精神医学55巻, P355-P362. 2013年
72	伊藤大幸	子どものこころの発達研究センター	「保育記録による発達尺度改訂版(NDSC-R)の標準化 月齢区分ごとの標準値およびカットオフ値の検討」	精神医学55巻, P549-560. 2013年
73	高柳伸哉	子どものこころの発達研究センター	小中学生における欠席行動と保護者評定による行動的・情緒的問題との関連	臨床精神医学, 42, 1563-1572. 2013. 【発達心理学】
74	伊藤大幸	子どものこころの発達研究センター	肯定的・否定的養育行動尺度の開発：因子構造および構成概念妥当性の検証	発達心理学研究. 印刷中. 【心理測定学】
75	望月直人	子どものこころの発達研究センター	中学生の非行行為と攻撃性, 抑うつとの関連	精神医学. 56(1), 4-11, 2014-01
76	伊藤大幸	子どものこころの発達研究センター	ASSQ日本語版の心理測定学的特性の検証と短縮版の開発	心理学研究. 2014

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 倫理委員会の開催時期 ・ 申請書類の提出期限 ・ 審査の方法および判定区分 ・ 重篤な有害事象及び不具合等に対する対応 ・ 講習その他必要な教育の受講 ・ 臨床研究の状況報告	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 6 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(注) 2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 浜松医科大学利益相反マネジメント規程 役員(非常勤を除く)および職員の産学官連携活動その他の社会貢献活動を行なう上での利益相反を適正に管理するために利益相反マネジメント委員会を置き、利益相反に関する内容を審議・調査等するため、学長が指名した理事又は副学長1名、知財活用推進本部構成員から学長が指名した2名の計3名で構成する、なお、必要に応じて弁護士等の学内外有識者に参加を求め審議案件等について意見を聞くこととしている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	26年度開催回数 2回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 ・ 臨床研究を行う上での基礎知識を習得する（プロトコールの作成、サンプリング、測定など） ・ 具体的にいくつかのプロトコールを例に挙げて、研究デザインの特徴や問題点等を理解する ・ 疫学研究の特徴等を理解する ・ 臨床研究に関する今後の課題等について理解する	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

①筋ジストロフィー症の診断における、家系図の作成、遺伝子診断の原理と方法の習得を行った。
 ②(1)MondayClub：本学内精神科医、臨床心理士等を対象とした臨床研究講演会(2)児童精神科連続講座：学内外の精神科医、小児科医その他の科の医師、臨床心理士等を対象とした児童精神科の臨床研究講演会(3)こどものこころの診療を考える研修会：学内外の精神科医、小児科医その他の科の医師、臨床心理士、看護師等を対象とした子どもの診療についての研修会
 ③(1)運動器の痛み―メカニズムに基づく治療戦略―(2)長寿国 日本の課題 健康寿命延伸への運動器の役割(3)スポーツに伴う関節軟骨障害の病態と治療(4)生物学的製剤時代のリウマチ性足部足関節障害の治療(5)関節リウマチにおける骨脆弱性と骨破壊(6)新たな膝OA治療を目指して―病態解析とMRI診断の取り組み―(7)PCL温存型TKAの過去・現在・未来(8)腰痛に対する攻略法
 (9)人工関節摺動面選択における留意点(10)腰椎椎間板障害(11)股関節治療難症(12)スポーツ診療における診断に際してのピットフォール
 ④(1)静岡県小児眼科研究会：県内の眼科医、視能訓練士が一同に会し、最新の研究成果を議論し、小児眼科の専門医療について啓発することを目的とする。(2)浜松医科大学眼科症例検討会：県内の眼科医、視能訓練士を対象として、症例検討と、他大学の教官による講演を通して、最新医療について議論すると同時に、専門医療について啓発することを目的とする。
 ⑤ C T検査におけるヨード造影副作用発現時の対応訓練
 ⑥ 歯科医師に対して1次救命処置(BLS)、急変傷病者に対する適切な初期対応、質の高い救命処置、AEDの安全操作について講義した。トレーニング用的人形、AEDトレーナーを用いて胸骨圧迫、人工呼吸・気道確保、意識・呼吸確認後の行動、1人法CPR、AED練習、チームによるAEDを使ったCPR練習を行った。
 ⑦医療安全講習会「輸血と医療安全」
 ⑧(1)がん医療従事者研修会 テーマ「大腸がん」(2)静岡がん治療フォーラム テーマ 第14回「Transoral Videolaryngoscopic Surgery (TOVS)-咽喉頭癌に対する新しいminimally invasive surgery-」、第15回「転移性骨腫瘍のマネジメント-knack and pitfall-」(3) (3)緩和ケア研修会 「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」
 ⑨ 浜松医科大学附属病院周産母子センター、NICU(新生児集中治療室)において新生児診療の研修を行ない、日本周産期・新生児医学会認定の周産期(新生児)専門医取得を目指す。高度の医療として、在胎28週未満の超早産児や出生体重1000g未満の超低出生体重児の診療、高頻度振動換気を含む人工呼吸器管理、一酸化窒素(NO)吸入療法、新生児低体温療法等の研修を行っている。
 ⑩<シミュレーションによる研修指導医養成セミナー>・DAMセミナー・気道確保困難症例に対する診断と対応/CVCセミナー・エコーガイド下中心静脈穿刺トレーニング/セデーションセミナー・非麻酔科医のための鎮静トレーニング/デブリフリングセミナー・振り返り学習のトレーニング/ISDセミナー・授業設計のトレーニング/TEEセミナー・経食道心エコーのトレーニング

2 研修の実績

研修医の人数	35人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮嶋 裕明	第一内科	教授	33年	
須田 隆文	第二内科	教授	28年	
林 秀晴	第三内科	教授	38年	
森 則夫	精神科神経科	教授	37年	
緒方 勤	小児科	教授	33年	
椎谷 紀彦	第一外科	教授	30年	
今野 弘之	第二外科	教授	36年	
難波 宏樹	脳神経外科	教授	35年	
松山 幸弘	整形外科	教授	27年	
戸倉 新樹	皮膚科	教授	32年	
大園 誠一郎	泌尿器科	教授	38年	
堀田 喜裕	眼科	教授	31年	
峯田 周幸	耳鼻咽喉科	教授	34年	
金山 尚裕	産科婦人科	教授	34年	
阪原 晴海	放射線科	教授	36年	
佐藤 重仁	麻酔科蘇生科	教授	39年	
美津島 隆	リハビリテーション科	准教授	25年	
深水 秀一	形成外科	准教授	34年	
渡邊 裕司	臨床薬理内科	教授	31年	
前川 真人	検査部	教授	32年	
馬場 聡	病理診断科	准教授	29年	
吉野 篤人	救急部	教授	28年	
木村 通男	医療情報部	教授	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六條の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)

・研修の主な内容

①(1)MondayClub: 本学内精神科医、臨床心理士等を対象とした臨床研究講演会(2)児童精神科連続講座: 学内外の精神科医、小児科医その他の科の医師、臨床心理士、看護師等を対象とした子どもの診療についての研修会 ②(1) 静岡県小児眼科研究会: 県内の眼科医、視能訓練士が一同に会し、最新の研究成果を議論し、小児眼科の専門医療について啓発することを目的とする。(2) 浜松医科大学眼科症例検討会: 県内の眼科医、視能訓練士を対象として、症例検討と、他大学の教官による講演を通して、最新医療について議論すると同時に、専門医療について啓発することを目的とする。③MRI特に高磁場MRIにおいて、検査室内への金属持ち込みは患者、医療従事者に危険を及ぼす場合がある。こうした金属製品や機械、異物の危険をどのように予防するか、また、生じた場合の対処法について研修を行った。④輸血治療に関する看護師を対象とした研修会 ⑤(1) がん医療従事者研修会 テーマ「大腸がん」(2) 静岡がん治療フォーラム テーマ 第14回「Transoral Videolaryngoscopic Surgery(TOVS)-咽喉頭癌に対する新しいminimally invasive surgery-」 第15回「転移性骨腫瘍のマネジメント-knack and pitfall-」 ⑥(1) 「ISO 15189 臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項」認定取得研修会および継続のための講習会(2) 技術研修会(3) スキルアップ研修会 ⑦(1) 臨床指導者研修(2) 専門・認定看護師企画研修

・研修の期間・実施回数

①(1) 毎週月曜日/3/7回(2) 7月14~15日、1月12~13日/2回(3) 7月12日/1回 ②(1) 2年に1回(2) 1年に2回
③2014.5.22 ④2013.6.13~204.3.14計18回 ⑤(1) 2013.10.24・2013.11.13(2) 2013.9.18・2014.2.14 ⑥全26回 ⑦(1) 2013.6.6-7、2014.1.9
(2) H2013.5~H2014.2 計25回

・研修の参加人数

①(1) 40~50名(2) 60~80名(3) 40名 ②(1) 70名程度(2) 80名程度
③12名 ④計153名 ⑤(1) 22名・23名(2) 41名・42名 ⑥ 延1,144名 ⑦(1) 98名(2) 651名

② 業務の管理に関する研修の実施状況 (任意)

・研修の主な内容

①「ISO 15189 臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項」認定取得研修会および継続のための講習会: 品質マネジメントシステムに関して
②看護管理者研修

・研修の期間・実施回数

① 2013.4.2~2014.3.13 全26回 ②全7回

・研修の参加人数

①延 1,144名 ②89名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 今野弘之
管理担当者氏名	総務課長 大森達郎／人事課長 大谷理恵／医事課長 柘植智司 薬剤部長 川上純一／放射線部長 阪原晴海／手術部長 佐藤重仁 看護部長 桑原弓枝／医療機器管理部長 林 秀晴

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録			
病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医事課（ただし、電子化により、処方箋は薬剤部、手術記録は手術部、放射線医用画像は放射線部、看護記録は看護部でそれぞれ管理している。）	カルテは、一患者1IDとし、入院及び外来ともに診療情報室において保存管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	人事課において保存管理している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	医事課において保存管理している。
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課・医事課	総務課・医事課において保存管理している。
	高度の医療の研修の実績	医事課	医事課において保存管理している。
	閲覧実績	総務課	総務課において保存管理している。
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	医事課において保存管理している。
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部	入院患者数・外来患者数については医事課において保存管理している。 調剤数については薬剤部において保存管理している。
第規 一則 号第 に一 掲条 の 十一 体制 第一 の 確項 保各 の号 状及 況 第 九 条 の 二 十 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	医療安全・感染対策室において保存管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医事課	医療安全・感染対策室において保存管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	薬剤部において保存管理している。
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療機器管理部	医療機器管理部にて計画、実施、管理している。
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	事務局次長(総務担当) 神村 茂
閲覧担当者氏名	総務課長 大森 達郎
閲覧の求めに応じる場所	総務課情報公開室
閲覧の手続の概要 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号)に基づき、国籍、住所、年齢、個人及び法人を問わず、浜松医科大学の保有する法人文書の開示を請求することができる。請求を受理してから、1か月以内(請求の内容によってはそれ以上の日数を要する場合もある。)に開示・不開示等を決定し、請求者に通知する。その後、請求者からの開示の実施申出を受け開示を実施する。	

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <p>安全管理に関する基本的な考え方 安全管理体制確保のための委員会組織等 医療事故発生時の対応等 診療科及び中央診療施設ごとに安全管理のためのマニュアルを設置し、適切に対応 患者からの医療の安全に関する相談・苦情等に対応するため患者相談窓口を設置</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>・活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理体制の確保に関すること 医療事故等の把握、分析、対処改善及び評価に関すること 医療安全管理のための職員研修に関すること その他の医療の安全管理に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 17 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>講演会 4 回（全職員対象） 医療安全管理及び感染対策に係る新任者研修 6 回（中途採用職員対象） 研修医ガイダンス 1 回（医療事故・安全対策について） 新採用者オリエンテーション 3 回（事故防止に関すること等） サマーセミナー 2 回 看護助手研修 1 回</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="radio"/>有・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療事故対策チームを設置し、医療事故につながる重篤な事態が生じた場合、速やかに患者の状態を確認し、主治医に専門分野としての判断による指示を与え治療に対する支援を行う。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有（ 2 名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有（ 1 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<p>・所属職員：専任（ 2 ）名 兼任（ 14 ）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>医療事故及びインシデントの収集、調査、分析に関すること 医療事故防止対策の立案及び周知に関すること リスクマネージャーとの連絡調整に関すること 医療事故防止に係る教育、研修、啓発の立案に関すること</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染対策に関する基本的な考え方・ 院内感染対策に関する管理組織機構・ 職員研修に関する基本方針・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針・ アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針・ 患者等への情報提供と説明に関する基本方針・ その他院内感染対策推進のための基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>〈審議事項〉 毎月1～2事項 〈報告事項〉 1) 感染症情報レポートおよびMRSAサーベイランス報告 2) ICTラウンド・コンサルテーション報告 3) 診療別抗菌薬使用状況の報告 4) 院内手指消毒用アルコールの消費量集計</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 19 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 全職員対象講習会 ・ 感染対策講習会：3回（主に平成25年度年間目標に関連した内容をテーマとした） ・ 医療安全・感染対策合同セミナー：1回（抗がん剤曝露・尿道留置カテーテル） 2) 職種・部署別研修 ・ 新採用看護師：3回 ・ 中途採用看護師：計4回 ・ 看護助手：1回 ・ 中途採用看護助手：計6回 ・ 研修医：1回 ・ 部署別勉強会：3回（結核について） 3) その他 ・ 委託業者研修：5回（栄養部、寝具・洗濯室、清掃、事務受付）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="radio"/>有・無</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 抗菌薬適正使用のため、薬剤師が毎日モニタリングを実施・ 週1回のICTミーティング・ラウンドによる抗菌薬適正使用の評価、感染対策実施状況の確認・ 院内Web内感染対策ホームページ、ICT NEWSによる情報提供	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>・抗がん剤レジメンオーダーの操作方法およびがん治療への薬学的介入</p> <p>・静脈注射の知識および実施に当たり注意すべきポイント</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 (有)・無</p> <p>・業務の主な内容：</p> <p>実施状況については年1回チェックシートを用いて確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・医薬品安全管理室員（副薬剤部長）が医療安全管理室に週あたり4時間程度在室し、GRMと事例の情報共有を行う。</p> <p>・医薬品安全管理室員が医療安全カンファレンスに参加し事例について多職種でのディスカッションを行う。</p>	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 38 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>医政指発第0330001号、医政研発第0330018号に従った特定高度管理医療機器を中心に、高度管理医療機器、一般医療機器などを含めた院内使用頻度の高い機器の院内医療従事者対象とする研修会を38回実施した。 また、医療機器関連学会認定資格取得などのため並びに医療機器管理部スタッフの技能・知識向上のため、延べ12回の講習会に参加した。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の作成 ○有・無</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>医療機器の保守点検・修理実績は1569件（保守点検：1161件、修理：408件）であった。保守点検の計画は、機器添付マニュアルまたは添付文書に記載される頻度、条件に従い点検計画を策定している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 ○有・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>当該機器メーカーからの安全性情報及び医薬品、医療機器総合機構からの安全性情報を収集（自動配信メールリストに登録）し、医療機器管理部の院内ホームページにて広報するとともに、当該機器関連部署に文書にて連絡する。また、GRM経由、医療安全管理室（院内医療安全委員会）へ通達している。院内で生じたインシデント・アクシデントに対しては、医療安全管理委員として医療安全管理室会議出席（1回/月）や医療安全リスクマネージャ会議（4回/年）、医療安全カンファレンス（4回/月）にて討議、安全啓発に努めている。</p>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構 平成26年3月4日 (火) 5日 (水)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 (1) 広報誌による情報発信・・・病院案内 (年1回)、「はんだ山の風」 (年4回)、医療福祉支援センター広報誌「かけはし」 (年4回) を発行し、県内・外に配信している。 (2) 公開講座による情報発信・・・浜松医科大学、静岡新聞社主催で「浜松医科大学公開講座(市民講座)」(H26.4～H27.1 (全7回))、浜松医科大学主催「公開講座」(H26.7～8 (全3回))を実施している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 (1) 緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、NSTチーム、感染対策室、医療安全管理室等多職種が参加した診療・ケアが実践されている。 (2) 放射線科が乳腺外科合同カンファレンス、心臓MRIカンファレンス、肝・胆・膵合同カンファレンス、脳神経外科カンファレンス及び耳鼻咽喉科カンファレンスと画像診断検討会を実施している。	